

学位授与番号	医博乙第1156号
学位授与年月日	平成4年2月5日
氏名	若林時夫
学位論文題目	膵疾患における膵液中CA19-9値測定の診断的意義に関する研究

論文審査委員	主査 教授 澤武紀雄
	副査 教授 小林健一
	教授 宮崎逸夫

### 内容の要旨および審査の結果の要旨

腺癌関連糖鎖抗原CA19-9の血中における測定は、膵癌の有力な腫瘍マーカーとして普及しているが、膵液中CA19-9値測定の診断的意義については未だ一定の見解は得られていない、本研究では、このような点を解明しようとして、各種膵疾患を中心として内視鏡的に採取した純膵液中のCA19-9を測定し、他の膵外分泌機能検査の指標や膵管像の異常度などと対比してその診断的意義を検討した。さらに、膵組織におけるCA19-9の免疫組織学的検索も加えて、その臨床病理学的背景をも明らかにしようとした。得られた成績は以下のように要約される。

1. 膵液中CA19-9値は濃度および排出量いずれでも全分画を通じて膵癌(PC)群(22例)で最も高値であったが、慢性膵炎(CP)群(44例)でも対照(C)群(13例)に比べて明らかに有意な高値を示し、前2者はかなり広範にオーバーラップした。
2. 膵液中CA19-9値についてC群のM+2SDを基準値にとると、第Ⅲ分画(排出相)ではPC群で90%、CP群で66%が異常と判定され、PCのみならずCPでも高い異常出現率がみられた。
3. CP群におけるCA19-9の異常出現率は、分時最高流量、最高重碳酸塩濃度、アミラーゼ排出量、ラクトフェリン濃度などの従来の指標に比べて有意に高率であった。
4. 免疫組織学的検討では、CA19-9の単なる発現率はCP組織と正常膵組織との間に明らかな差はみられなかったが、染色範囲でみると、CPでは小膵管(SD)と大膵管(LD)においてより広範囲に染色されるものが明らかに多くみられた。加えて、CPでは正常膵に比べて単位面積当たりの染色された膵管数も有意に増加していた。
5. 染色パターンをみると、正常膵では染色されたSDとLDはいずれにおいても極性の保たれたapical typeを示したのに対し、CPではそれらの約50%が極性の乱れたcytoplasmic typeを示していた。さらに、後者の染色パターンは、CPの主に膵小葉実質壊死後に増生したSDに有意に多く出現していた。

以上より、膵液中CA19-9値は腫瘍マーカーとしては特異性に乏しいが、非特異的に膵障害を反映する鋭感な指標になりうるものと考えられた。また、慢性膵炎では膵小葉実質壊死後に生じた小膵管の増生を反映して膵液中CA19-9値が上昇するものと推察された。

本研究は、膵液中CA19-9値測定の臨床診断的意義をその病理学的背景を含めて解明したものであり、有力な検査法の乏しい慢性膵疾患の診断において有意義な指標を提供した点で価値ある業績と評価された。